

NEWS

JAAF
HIROSHIMA

陸協ひろしまニュース
一般財団法人 広島陸上競技協会

第87号

H29.12.23発行



Akane Watanabe

渡邊茜

最後の国体種目で優勝!!

古里へ恩返し

最後のチャンスで優勝をつかみ取る!

渡邊 茜

女子ハンマー投

丸和運輸機関

Akane Watanabe

プロフィール	渡邊 茜(わたなべあかね) / 身長:173cm / 体重:75kg / 1991年(平成3年)8月13日生まれ 2004年(平成16年)広島市立砂谷中学校・入学→2007年(平成19年)東大阪大学敬愛高校・入学→ 2010年(平成22年)九州共立大学入学・入学→2014年(平成26年)株式会社 丸和運輸機関・入社
主な成績	2015年 アジア選手権・第3位(59m39) / 全日本実業団・優勝(64m92) 2016年 第100回日本選手権・優勝(65m33) 2017年 全日本実業団・優勝(64m16) / 第72回国民体育大会・優勝(62m33)
自己ベスト	2016年 第32回静岡国際陸上・優勝(66m79)



故郷の方角へと勢いよく飛び出したハンマーに、渡邊茜は渾身の一声を投げかけた。「行けー」。2017年10月6日に愛媛県松山市のニンジニアスタジアムで開催された愛媛国体成年女子ハンマー投。2投目で62m33をマークした渡邊が、悲願の国体王者に輝いた。『**広島**の代表として出られるのは**今回が最後**かもしれない。だから**最後の最後で勝**てて本当に良かったです』。広島を離れてちょうど10年目。感無量の面持ちで、国体優勝の喜びをかみしめた。

広島市佐伯区の砂谷中から大阪・東大阪大敬愛高、九州共立大を経て、14年に埼玉県の丸和運輸機関に入社。陸上人生で言えば広島県外での生活の方が長くなったが、故郷への愛着は深い。『**広島以外から国体に出るなんて考えたこともない**』と九州共立大1年時から広島のユニホームで出場し続けてきた。

ただ、頂点は遠かった。10年、11年は砲丸投でエントリーし、12年からハンマー投で出場。しかし、元世界選手権代表の綾真澄という大きな壁を超えられなかった。14、15年は惜しくも2位に終わり、初の日本選手権王者として臨んだ昨年の岩手国体も3位。さらに今回限りで女子ハンマー投が国体種目から消えることが決まり、『**広島からずっと国体に**

出させてもらった。最後は絶対に優勝して貢献したい』。強い決意を抱いて愛媛へと乗り込んだ。

当日は断続的に雨が降り、投てき競技には厳しいコンディションだった。それでも、経験豊富な26歳は「落ち着いて、丁寧に投げることを意識した」と平常心をキープ。一方で気温が下がり、足元の滑りやすさも増す中で「早い段階で、ある程度の記録が必要」と肝に銘じた。

その狙い通り、1投目で出場17選手中1位の59m80を記録。2投目の試技に入る前に、今年の日本選手権を制した成長株の勝山眸美(埼玉・オリコ)が60m15を出してトップに立った。だが、冷静だった。バランスの良い回転から放たれたハンマーは大きな弧を描き、62m33をマーク。『**今日の中では一番まとまっていた。気持ち良く投げられたと思う**』。優勝が決まると何度もガッツポーズ。表彰式でも、観客席からの大きな声援に満面の笑みで応えた。



愛媛国体で有終の美を飾るまで、2017年シーズンは苦戦を強いられていた。長年、女子ハンマー界をけん引してきた綾が引退し、その後継者としての重圧を受け止めてきたからだ。『**今までは綾さん**を目標に頑張ってきた。綾さんがいなくなり、**大げさかもしれないけど、日本の代表として頑張**っていかないとダメだと思った。他の人には負けら

れないというプレッシャーもあった』と振り返る。

春先から室伏由佳の持つ67m77の日本記録更新を目標に掲げたが、記録は低調。5月のセイコーゴールデンGPでは65m21を記録し、上り調子で臨んだ6月に日本選手権は62m64に終わって勝山に敗れた。

「負けは負け。切り替えるしかない」と臨んだ9月の全日本実業団対抗選手権。64m16で3連覇を達成し、勝山にリベンジを果たした。ただ、志が高いだけに満足感はない。『**記録が出なかったのが残念。勝ち続けることは難しいけど、10連覇を目指して頑張**っていく』。この貪欲な姿勢も、愛媛国体での活躍に結びついた。

来年の福井国体から女子ハンマー投が消え、当面は広島の赤いユニホームに別れを告げる。とはいえ、九州共立大で同学年だった広島東洋カープの大



瀬良大地投手や中国電力ラグビー部の森田政彰選手とは交流もあり、『**広島で頑張**っている同級生に、**負けて**いけない』。心の奥底には常に「広島魂」が宿っている。

記録的には『**今季はくすぶって**しまった』と反省するだけに、2018年に懸ける思いは強い。『**春から日本記録を狙**う。練習で**コンスタントに記録**を出せるよう、**レベルアップ**していきたい』と青写真を描く。

第一人者としての自覚も強まってきた。『**もっと世界に目を向**けていけないといけない。下ばかり向いて**いられない**ので』。広島から世界へ。渡邊の投じるハンマーは、次のステージへと飛び去っていく。 text by K



1

2017.OCT
105
THU

感謝と地元愛!

激しい雨はあがったものの、気温はどんどん下がっていく。そんな悪コンディションも、成年女子ハンマー投に出場した渡邊(丸輪運輸機関)の「地元」に恩返しをしたいという気持ちの前には問題にならなかった。8年間届かなかった優勝をついにつかみ取った。来年種目変更のため、今年が最後のチャンスであったが、それを見事にものにした。

また、成年女子800mの池崎(順天堂大)と少年女子共通1500mの榎原(呉三津田高)も翌日の決勝に進出。希望の持てるスタートとなった。



↑渡邊茜選手

2

2017.OCT
106
FRI

驚異の1年生!



秋らしい天候となり好記録が期待される1日となった。先陣を切って今年大学生となった池崎(順天堂大)が堅実なレース展開を見せ4位入賞。続いて今年高校生になった榎原(呉三津田高)も先輩に続けと堅実で粘り強い走りを見せ、共通女子(高3~中3)の категорияの中で高校1年生ながら見事に5位入賞と大健闘した。

また、成年男子走高跳では真野(福岡大)がこちらも大健闘の3位となり、今大会男子初入賞となった。



↑池崎愛里選手



↑榎原紗紀選手(中央)



↑真野友博選手

秩父宮章・優秀指導者章!



山本浩司先生
(神辺旭高校教諭)



左:畠山洋二先生
(祇園東中学校主幹教諭)
右:秋山定之先生
(広島陸上競技協会常務理事)



「頑張れチーム広島」愛媛 国体にて



えがお 愛顔つなぐえひめ国体

第72回国民体育大会

平成29年9月30日(土)~10月10日(火)



えがお 愛顔つなぐえひめ大会

第17回全国障害者スポーツ大会

平成29年10月28日(土)~10月30日(月)

君は風 いしづちを駆け 瀬戸に舞え

応援ありがとう
ございました!



総合成績 天皇杯(男女):61点[14位]
皇后杯(女):35点[15位]

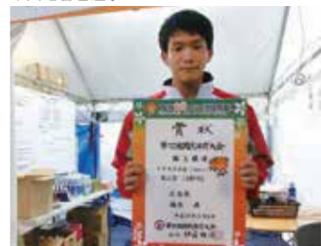
3 2017.OCT
107
SAT



少年男子の意地!



↑大地智也選手



↑福本廉選手

2日目までとうって変わり暑い1日となった。昨日まで入賞の無かった少年男子種目で初の入賞が誕生した。まず最初に少年男子B砲丸投で大地(神辺旭高)が、昨年の5位から順位を2つ上げて自己新記録での3位。続いて少年男子共通110mHにおいて福本(広島皆実高)が2年生ながら4位に入賞し、インターハイ準決勝敗退のリベンジを果たした。ともにユース記録ながら自身が持つ県高校記録を更新し、来年度以降の自信に繋がる結果を残すことが出来た。

また、本日からリレーも始まり男女とも準決勝に進出。女子は広島県歴代2位の記録で予選通過、明日の準決勝では県記録の更新を目指し士気を高めた。

4 2017.OCT
108
SUN



先制パンチと連覇!



↑出海将選手(中央)



↑安立雄斗選手



↑高山峻野選手



↑上田万葵選手

大会期間中一番暑い1日となった。先陣を切って少年男子Aやり投で出海(西条農高)が無風の悪条件の中で1投目に好記録を出し、8位に入賞した。ほぼ同時刻から始まった少年男子共通三段跳では安立(広島工大高)が、これも1本目から自己新記録を更新する大ジャンプで5位に入賞。見事な先制パンチが入賞へとつながった。続いて、今年ロンドンで行われた世界選手権日本代表選手でもある高山(ゼンリン)は、連戦の疲れもあるなか成年男子110mHで5位入賞と意地を見せた。

そして最後に大きなドラマが待っていた。昨年度少年女子B800mで優勝した上田(舟山高)が連覇を目指しての出場。残り30m、誰もが敗れたと感じた数秒間、残り30センチを差し切った。最後の最後まで諦めない驚異的な粘りを発揮したレースは自己記録を大幅に更新する大会新記録と2連覇だった。

リレーの準決勝では男子が広島県歴代2位の記録ながら、惜しくも決勝に進むことが出来なかった。男子は39秒台、女子は45秒台を常に出すことが必要であると再確認した。

5 2017.OCT
109
MON



最終日、残念ながら前日のラウンドを突破できず、広島県が出場する種目がなかった。

天皇杯(男女総合)は14位、皇后杯(女子総合)は15位であった。今大会は少年種目の頑張りが目立ったように感じている。あと一歩で入賞ができなかった種目も含めて、チーム広島が一丸となり多数入賞できるように、今後も関係機関と連携強化を図っていききたい。

福井国体に向けてGO!



福井しあわせ元気国体2018
福井しあわせ元気大会2018
キャラクター「はびりゅう」▶



年代別レポート

小体連

7月2日(日)の広島県予選で1位になった14種目22名が「チーム広島」として選手団を結成し、「日清カップ」第33回全国小学生陸上競技交流大会(神奈川・日産スタジアム8月19・20日)に出場した。全国大会までに選手団の団結・競技力向上のために、2回合同練習会を行った。1回目は広島皆実高校で行い、憧れの先輩達方へ、元気に指導を受けた。2回目は夕方、涼しい時間帯に東広島運動公園で行い、良い雰囲気で行った。22名は元気に競技に挑み、女子5年100m、女子6年100m、女子80mHが準決勝へ。惜しくも決勝に進めなかったが将来性豊かな走りだった。昨年から始まったジャベリックボール投げは大会新記録が続出。女子ジャベリックボールの選手が県記録を作り上位に期待したが予想以上にハイレベルな大会になった。今後も継続して投運動・跳躍(走高跳)普及活動の必要性を感じる大会だった。また、9月23日(土)に第20回全国小学生クロスカントリー-広島県予選が道後山ウロカントリー場で行われ、「東広島TFC」が2連覇。全国大会へのキープを手にした。全日本大学駅伝予選会と重なり、ご協力とご理解を頂いた学連関係者の皆様には感謝申し上げます。今後も広島県の小学生アスリートの活躍・活動を支えていただき、皆様のご指導・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

広島陸上競技協会 指導・普及副委員長
花守 慎太郎



中体連

今年のトラック&フィールドを振り返りたいと思う。全体的に競技レベルが向上していると感じられる年となった。その成果が確認できたのは、第51回中国中学校陸上競技選手権大会(岡山県)で、7年ぶり男女総合優勝したことであった。県選手団として得点に貢献するといった勝負の仕方を楽しみ、盛り上がりを見せた。種目別に見ると、第51回織田幹雄記念国際陸上競技大会において、第63回全日本中学校通信陸上競技広島県大会において、女子走幅跳で大会記録を37年ぶりに更新した藤東愛心(五日市中3年)5m65cm。第44回全国中学陸上競技選手権大会において3種目入賞(先号で紹介)第48回ジュニアオリンピック陸上競技大会において、共通男子ジャベリックスローで優勝および県中学記録を8年ぶりに更新した櫻井真奈斗(宇品中3年)、女子4×100mリレーにおいて、県選抜県中学記録を6年ぶりに更新した女子チームなど7種目に入賞し、確実なレベルアップが感じられた。また、今年から広島陸上競技協会主催の走高跳教室が始まり、県内各地で開催している。早速今年から男女とも全国的に活躍する選手を輩出した。このような、誰でも参加できる陸上教室が各地で開催されていることもレベルアップの要因だと思える。専門的に学べ、ライバルと競うことができる良い機会だと思う。広島市サタデー陸上(毎月1回程度)、広島市投擲・跳躍教室(秋・冬季)、福山アスリート練習会(毎週水曜日19時から)、東広島イブニング陸上(夏季)、広島陸上競技協会陸上



↑左から騎手迫田力哉(瀬野川中3年)男子主将中村京介(AICJ中3年)監督井上泰治(河内中)女子主将藤波吉歌(中3年)後ろ広島県選手団



↑ジャベリックスロー優勝の櫻井真奈斗

教室・走高跳・棒高跳教室(年間数回)の開催などである。

●第48回ジュニアオリンピック陸上競技大会(日産スタジアム)報告

《男子》

- ◎Aクラス男子走高跳
第7位 1m89cm 杉原哲平(古田中3年)
- ◎Bクラス1500m
第5位 4'05"46 小江幸人(高屋中2年)
- ◎Cクラス走幅跳
第8位 5m76cm 山下壮太(神辺東中1年)
- ◎共通ジャベリックスロー
第1位 66m27cm 櫻井真奈斗(宇品中3年)
広島県中学新記録

《女子》

- ◎Aクラス走高跳
第7位 1m61cm 梅田羽舞(高美が丘中3年)
- ◎Bクラス走幅跳
第5位 5m20cm 岡田麻奈(高西中2年)
- ◎共通女子4×100mR
県選抜チーム 48'71 広島県中学新記録
- ①中西彩(広島三和中1年)②清水鈴奈(幸千中2年)③瀧尾美月(駅家南中3年)④山本千菜(府中緑ヶ丘中2年)入賞はしていないが、Cクラス1500m中田透羽(高屋中1年)予選においての4'14"80は驚異的な記録と言える。



↑女子4×100mR県中記録を出した女子チーム

広島陸上競技協会 強化委員
井上 泰治

速報!

12月17日(日)に滋賀県で行われた第25回全国中学校駅伝大会で高屋中(男子)が第2位(57分32秒)に入りました!

高体連

2017年度高校生の活躍
夏から秋のシーズン、そして駅伝の季節となった。
本年度の全国大会入賞者は次のとおりである

●全国高校総体(山形インターハイ)

- ◎男子5000m
3位 デービッド グレ 世羅 13分52秒10
- ◎男子棒高跳
3位 菅 颯一郎 神辺旭 4m95
8位 岡本 江琉 神辺旭 4m80
- ◎女子800m
4位 徳重 夢乃 舟入 2分09秒44
- ◎女子1500m
6位 ナオミ ムッソーニ 世羅 4分19秒04

●U-20日本陸上競技選手権

- ◎男子棒高跳
8位 菅 颯一郎 神辺旭 4m80
8位 岡本 江琉 神辺旭 4m80

●U-18日本陸上競技選手権

- ◎男子110mH
6位 福本 廉 広島皆実 14秒07

◎男子走幅跳

- 2位 藤原 陸登 福山工 7m33

◎男子三段跳

- 2位 安立 雄斗 広島工大 14m94
8位 藤原 陸登 福山工 14m36

◎女子800m

- 2位 上田 万葵 舟入 2分09秒52
8位 榎原 沙紀 呉三津田 2分13秒47

◎女子400mH

- 8位 橋本麻耶子 神辺旭 1分02秒63

◎女子ハンマー投

- 3位 中新 美月 西条農 49m20
4位 村上 愛結 安芸 48m55

インターハイは苦戦したものの、国体以後は1・2年生の活躍や、同一種目の複数入賞でライバルとの切磋琢磨により来年度に期待できるシーズンだった。これからの冬季練習でじっくり強い身体をつくり、来年度に備えてもらいたい。

広島県高体連陸上競技部競技力向上委員長 広島皆実高校
樋口 裕志

学生連盟

今年の前半の広島県学連の活動として一番大きなものは、西日本インカレの運営でした。学生の大会では全日本インカレに次ぐ大きなトラックの試合となります。今回広島県学連の学

生は、学生審判や補助員として大会運営に参加しました。私自身は中国四国学生陸上競技連盟の方々や他の地区学連の方々と共に仕事をしました。学生審判を西日本インカレで失敗なくやっってもらったために、4月の団体強化記録会や織田陸上、6月の中国高校選手権などで経験を積んで審判に臨みました。西日本インカレ当日3日間は、朝早くから夜遅くまで仕事をやらしてもらいました。2日目には、女子競歩と女子800mでトラブルがありました。このトラブルは今後の解決策につながるものだと考えて反省に繋がるとは思います。ですが3日間、広島県学連の学生の働きによって西日本インカレが無事に終わることができたことと東川中国四国学連会長からもお褒めの言葉をいただきました。広島県学連の学生には昨年の10月に行った中国四国陸上競技学生選手権でも補助員や学生審判をやっていたいただきました。2年連続で大きな大会でこのようなことができたことは、陸上競技を運営するという貴重な体験ができたのではないかとと思います。普段は大会に競技者として参加するだけです。しかし大会には運営してくれている人がいます。今回西日本インカレの運営を行うことで運営側の苦労がわかり、陸上競技に感謝をもってやれることに繋がったのではないかと思います。来年度もまた10月に中国四国陸上競技学生選手権が広島県で行われます。この大会でも広島県学連の学生に、運営補助してもらいたいことなるとも思います。県学連の幹事長として快くやってくれる広島県の大学の皆様には感謝したいと思います。

中国四国学生陸上競技連盟広島支部幹事長
広島修道大学陸上競技部 山本 雄大

実業団連盟

8月にイギリス・ロンドンで開催された第16回世界陸上競技選手権大会で、木村文子選手(エディオン)が女子100mHに日本代表として出場したのをはじめ、当連盟所属選手が各大会で活躍をした。6月3日(土)庄原市上野総合運動公園陸上競技場にて第55回広島県実業団陸上競技選手権大会を開催した。学生連盟と合同開催することで多くの選手が参加し、大いに盛り上がった。中でも1500m、5000mにおいてバトリック・キマニ選手(JFEスチール)が健闘し2冠を達成した。駅伝では、10月22日(日)に第55回広島県実業団駅伝競走大会を、岡山県笠岡陸上競技場発着で開催した。同大会は岡山県社会人対抗駅伝競走大会と同時に開催しており、大会には広島・岡山から計19チームが出場。1部では、2区で先頭を奪ったマツダAが後半そのまま逃げ切り40年ぶりの優勝を手にした。2部では、広島市役所Aが4位に入り広島県勢最高順位となった。また、11月12日(日)には第56回全国実業団対抗駅伝競走大会が世羅郡世羅町で開催され、終盤までマツダ、中国電力が接戦を繰り広げ、マツダが3連覇を達成した。この結果、来年度に群馬県で開催される第62回全日本実業団対抗駅伝競走大会に、マツダ、中国電力、中電工の3チームの出場が決定した。今シーズンの駅伝・マラソンの実業団選手の更なる活躍を期待したい。



↑広島県実業団駅伝競走大会
マツダA

広島県実業団陸上競技連盟 事務局
中電工 栗原 圭太

マスターズ連盟

2017年度 締めくくり

6月に第35回広島マスターズ陸上選手権大会を尾道びんご運動公園で開催した。諸先輩が築いて下さった大会も35回を数える記念大会となった。多くの仲間が参加された中で圧巻は三次市在住の100才・富久正二さんの60m日本記録の走りだった。富中さんは7月に中国マスターズ陸上(鳥取・布施)、そして10月に全日本マスターズ陸上(和歌山・紀三井寺)と世界記録目指して元気いっぱい走りやされ、今では広島のみならず全国的に知られる所となった。昨年度から開始された「マスターズ記録会」も今年度から県北の地・「庄原上野総合公園陸上競技場」で開催し、雨天の中多くの会員が自己新記録を目指した。また、久しく参加を見送っていた「全日本マスターズ駅伝・滋賀希望ヶ丘公園、10月1日」に参加、続いて「中国マスターズ駅伝・備北丘陵公園、11月3日」開催。「明るく、楽しく、マナー良く」のキャッチフレーズの下、生涯陸上競技現役を目指す会員の活躍の1年だった。大会開催に当たっては多くの競技場、審判員そして学生補助員の皆さんにご尽力いただいた一年だった。改めて感謝申し上げます。全天候トラックで躍動した皆さん、夢のつづきを…マスターズ陸上で繋ぎましょう。

●詳細は広島マスターズ陸上HPをご参照下さい。

ホームページアドレス
<http://sports.geocities.jp/mastershiroshima/>

広島マスターズ陸上 広報
前田 征四郎

文部科学大臣表彰

(生涯スポーツ功労者)

小林 富夫

(広島陸上競技協会評議員・指導・普及副委員長)

文部科学大臣表彰

(スポーツ推進委員功労者)

藤井 英憲

(福山市陸上競技協会 会長)

公益財団法人 日本陸上競技連盟栄章

秩父宮章

秋山 定之

(広島陸上競技協会常務理事)

高校優秀指導者章

山本 浩司

(神辺旭高校教諭)

中学優秀指導者章

島山 洋二

(祇園東中学校主幹教諭)

高校優秀選手章

池崎 愛里

(舟入高校→順天堂大学)

中学優秀選手章

上田 万葵

(大野東中学校→舟入高校)

安藤百福記念章

浜田 昭彦

(サンフラワーSC)

公益財団法人 広島県体育協会体育賞

【功労者の部】

●川堀 耕史 (広島陸協・川堀病院)

●石川 和明 (広島陸協・海田南小学校)

●宮本 武利 (広島市スポーツ協会)

●荒谷 茂樹 (熊野町体育協会)

一般財団法人 広島陸上競技協会

【功労章】

●鈴木 裕志 (広島市) ●横手 重男 (江田島市)

●茶園 博美 (庄原市) ●野中 千恵 (世羅郡)

●坂口 泰 (本部)

一般財団法人 広島陸上競技協会

【優秀選手賞】

●国際大会の部

●木村 文子 (エディオン)

第22回アジア陸上競技選手権大会

(7月8日・ブバネーシュワル/インド)

女子100mH 2位 13秒30

●工藤 有生 (駒澤大学)

第29回ユニバーシアード競技大会

(8月27日・台北市/台湾)

男子ハーフマラソン 団体優勝

個人2位 1時間06分23秒

●国内大会の部

●木村 文子 (エディオン)

第101回日本陸上競技選手権大会

(6月25日・ヤンマースタジアム長居)

女子100mH 優勝 13秒12

●櫻井 真奈斗 (宇品中学校)

第48回ジュニアオリンピック陸上競技大会

(10月27日・日産スタジアム)

ABC男子共通 ジャベリックスロー 優勝

66m27

●第72回国民体育大会優勝および入賞の部

【1位】 ●渡邊 茜 (丸和運輸機関)

成年女子ハンマー投 62m33

●上田 万葵 (舟入高校)

少年女子B 800m

2分07秒12 [大会新記録]

【3位】 ●真野 友博 (福岡大学)

成年男子走高跳 2m19

●大地 智也 (神辺旭高校)

少年男子B砲丸投 16m22

【4位】 ●福本 廉 (広島皆実高校)

少年男子共通110mJH 13秒76

●池崎 愛里 (順天堂大学)

成年女子800m 2分06秒50

【5位】 ●高山 峻野 (ゼンリン)

成年男子110mH 13秒68

●安立 雄斗 (広島工大高校)

少年男子共通三段跳 15m12

●榎原 紗紀 (呉三津田高校)

少年女子共通1500m 4分21秒88

【8位】 ●出海 将 (西条農業高校)

少年男子Aやり投 60m69

【新記録賞】

●県高校記録

●菅 颯一郎 (神辺旭高校)

男子棒高跳 5m10

第70回中国高等学校陸上競技対校選手権大会

(6月16日・広島広域公園)

●福本 廉 (広島皆実高校)

男子110mJH 13秒71

第72回国民体育大会

(10月8日・松山ニンジニアスタジアム)

●県国際高校記録

●ナオミ・ムッソニー (世羅高校)

女子1500m 4分16秒16

第70回広島県高等学校総合体育大会

(5月26日・広島スタジアム)

●県中学生記録

●脇坂 里桜 (府中緑ヶ丘中学校)

女子100m 12秒14

第51回織田幹雄記念国際陸上競技大会

(4月29日・広島広域公園)

●櫻井真奈斗 (宇品中学校)

男子ジャベリックスロー 66m27

第48回ジュニアオリンピック陸上競技大会

(10月27日・日産スタジアム)

【会長特別表彰】

●竹田 純子 (大野東中学校講師)

女子800mで国体2連覇を遂げた上田万葵(現舟入高校)を指導

小学生に陸上教えた。

中国新聞/平成29年10月20日(金)掲載

僕は陸上部です。先日、中学生が小学生に教える陸上教室がありました。この教室は、自分にとって大変やりがいのあるものになりました。

僕は人に教えるという不安でいっぱいでした。でも、先輩たちが教える姿を見て、こうすればいいのかと分かり、小学生にいくつかのアドバイスを伝えるようになりました。

「もっと足を上げたいよ」「アドバイスを意識したら走りやすいよ」など、どんどん言えました。小学生も、アドバイスを意識して走ってくれました。

先輩たちの姿をまねてアドバイスをしていると、最初の不安がいつのまにか吹き飛んでいました。人に教えるコツをつかめてよかったです。

陸上教室を通して、小学生たちに陸上競技の楽しさと走るコツを伝えることができ、僕も学ぶことの多い教室になりました。来年も、大好きな陸上種目を教えたいと思います。

江田島市立大柿中学校 小笹山 潤

小学生に陸上競技を教えたことで、さらに、自分も陸上競技が好きになり、自分自身も、もっと強くなりたくなる。このような取組が、陸上競技を通して人間を育てるということなのだろう。県内のさまざまな場所で、多くの指導者が機会を創りだし、取組んでくださっていることに心より感謝したい。

広島陸上競技協会 会長 三宅 勝次

天皇盃 第23回 全国都道府県対抗男子駅伝競走大会

広島県代表選手団 [2018/1/21 広島]

種目	名前	所属
選手	鐘坂 哲哉	旭化成
選手	工藤 有生	駒澤大学
選手	新迫 志希	早稲田大学
選手	梶山林太郎	世羅高校
選手	前垣内 皓大	世羅高校
選手	伊豫田 達弥	舟入高校
選手	中野 翔太	世羅高校
選手	吉本 真啓	高屋中学校
選手	中野 春希	坂中学校
選手	小江 幸人	高屋中学校
監督	岩本 真弥	世羅高校
コーチ	油谷 繁	中国電力
コーチ	大瀬戸 積	府中緑ヶ丘中学校

皇后盃 第36回 全国都道府県対抗女子駅伝競走大会

広島県代表選手団 [2018/1/14 京都]

種目	名前	所属
選手	渡邊 裕子	エディオン
選手	安井 絵理奈	エディオン
選手	西田 美咲	エディオン
選手	小吉川志乃舞	ユニバーサルエンターテインメント
選手	向井 優香	第一生命グループ
選手	森長 彩理	世羅高校
選手	相原 美咲	世羅高校
選手	真崎 遥	世羅高校
選手	平岡 美帆	舟入高校
選手	榎原 紗紀	呉三津田高校
選手	下高 美穂	坂中学校
選手	谷本 七星	国泰寺中学校
選手	細迫 由野	坂中学校
監督	浜崎 正信	市広島工高校
コーチ	島村 雅浩	修大附鈴峯女高校
コーチ	池田 義和	三原二中学校

青少年の夢を応援します!

青少年健全育成協力企業

- 株式会社サタケ
- 広島駅弁当株式会社
- 株式会社広島銀行

- 広島ガス株式会社
- 広島電鉄株式会社
- 学校法人石田学園
- 株式会社中電工
- 株式会社もみじ銀行

- 広島総合警備保障株式会社
- 有限会社ニシヒロ
- アシックスジャパン株式会社
- 有限会社道後山高原サービス
- 株式会社体育社

- 中国電力株式会社
- 大塚製薬株式会社
- 株式会社合人社グループ
- 株式会社ツルハグループ
- ドラッグ&ファーマシー西日本

特別協力企業

- ミズノ株式会社
- 株式会社キリンビバックス

(順不同)